

「11月5日は世界津波の日」です

津波防災の日

学校や地域で行われる訓練に参加しましょう!



「稲むらの火の館」のホームページより

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/index.html>

この時、人を助けるために力をおしまない浜口梧陵という人物は、暗やみの中で逃げ遅れている人に気づき、安全な高台へと「ひなん」をせよと、生活のためにかきとって「天日干し」にしていた「稲」に火をつけることで、津波から多くの村人の命を救いました。村人の命を救うためとはいえ一年間の大切な収穫である「稲むら」を全て燃やしてしまうというのは、とても勇気のいる行動です。何よりも命が大切ということを教えてください。この話は「稲むらの火」という物語となっていて今も語りつがれています。

十一月五日は、「世界津波の日」(日本では津波防災の日)です。

全国各地で地震や津波から身を守るための訓練が行われます。みなさんも学校や地域で行われる訓練に参加しましょう。

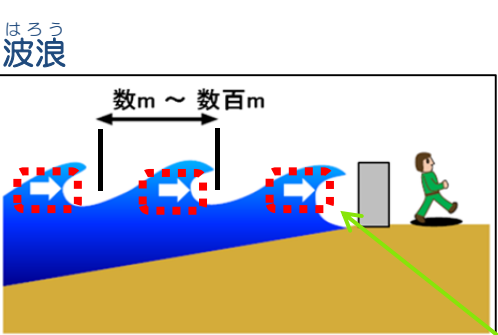
安政元年(一八五四年)十一月五日、安政南海地震と呼ばれる大地震が発生し、大きな津波が和歌山県をおそいました。

この時、人を助けるために力をおしまない浜口梧陵という人物は、暗やみの中で逃げ遅れている人に気づき、安全な高台へと「ひなん」をせよと、生活のためにかきとって「天日干し」にしていた「稲」に火をつけることで、津波から多くの村人の命を救いました。村人の命を救うためとはいえ一年間の大切な収穫である「稲むら」を全て燃やしてしまうというのは、とても勇気のいる行動です。何よりも命が大切ということを知ってほしい。この話は「稲むらの火」という物語となっていて今も語りつがれています。

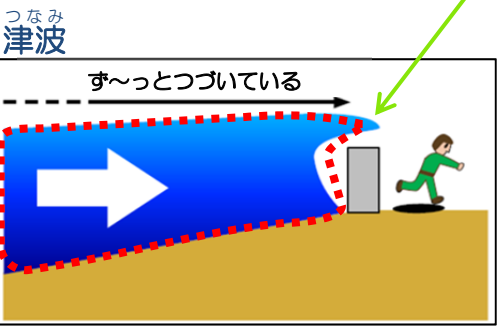


2017年	10月5日	木曜日
平成29年		
福岡管区気象台	〒810-0052	
防災調査課	福岡市中央区大濠 1-2-36	
電話	092-725-3614 (記事) 092-725-3600 (天気相談所)	
メール	fk-kanku@met.kishou.go.jp (ご意見・ご要望はこちらまで)	

津波と波浪って何がちがうの? <津波は力持ち>



海面付近の海水だけが押し寄せる



海底から海面まで海水全体が押し寄せる

長い波長の津波は一つの波が壁のような塊となっていて押し寄せるため、波浪と違い家を破壊するほどのとても強い力を持っています。また、津波が引く場合も強い力で長時間にわたって引き続けるため、破壊した家や車などを一気に海の中に引き込みます。

(赤い点線の広さが波浪と津波の強さの力の差になるよ)

大切なこと

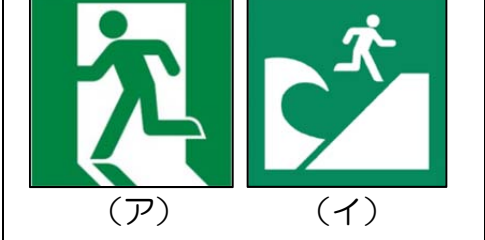


大地震が発生した時、どうしますか?

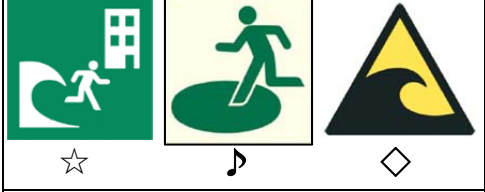
- ①地震のゆれを感じたら、すぐに身をまもる
- ②ゆれが続いている間は身をまもり続ける
- ③落ち着いて身のまわりに危険がないかを確認
- ④ゆれが大きかったときや、ゆれが小さくても津波警報が出たときは、すぐに「ひなん」
- ⑤津波からの「ひなん」は、できるだけ高いところへにげて海や川に近づかない
- ⑥津波は、くり返しおそってくるので、津波警報がでている間は「ひなん」を続ける

<<防災Q&A>>

Q: 津波などの災害が起きたときのひなん場所をあらわすのはどっちでしょう?



A: 正解は(イ)です。
(ア)は非常口のマークですね。このようなひなん場所をあらわすマークは、ほかにもあります。どんなところに、どのようなマークがあるのか君のまちでも探してみよう。



- ☆: 津波ひなんビル
- ♪: 広域ひなん場所
- ◇: 津波注意

先生方へ 津波から子ども達の命を守るために

津波から命を守るには、逃げるのが唯一の方法です。津波の速さは時速40km近くなることもあり、津波が見えてから逃げたのではオリンピックの短距離選手でも追いつかれます。子ども達が自らの判断で津波から逃げるための力をつけるために、教室で先生方が進行役となって行うグループワークの教材を作成しました。福岡管区気象台HPにはこの教材のほか、学校で利用できる防災関連の資料を準備しています。子ども達の命を守るために、これらの資料をぜひご利用ください。



防災情報へのアクセス

津波防災の日

津波防災ひろめ隊 検索

アニメ「津波からにげる」

津波からにげる 検索